

2019年7月4日  
公益財団法人イオン環境財団

## 7月13日(土)第2回「第2期 インドネシア ジャカルタ植樹」を実施

公益財団法人イオン環境財団（理事長 岡田卓也 イオン株式会社名誉会長相談役）は、7月13日（土）、ジャカルタ市北部に位置するパンタイインダ カブック沼地において第2回「第2期 インドネシア ジャカルタ植樹」を実施します。

このたび植樹を行うパンタイインダ カブック沼地は、近年の都市開発の影響を受け、マングローブ等から成る防災林の立ち枯れが問題となっています。当財団は、周辺住宅地や高速道路を洪水災害から守るとともに、緑あふれる沿岸部を再生することを目的に、ジャカルタ首都特別州と共に昨年よりこの沼地において第2期の植樹活動を実施しており、2020年までの3カ年計画で30,000本を植樹する予定です。第2回となる本年は、日本とインドネシア両国のボランティア1,000名の皆さまとともに、10,000本のマングローブを植樹します。

なお、2011年から2013年の3年間で実施した「第1期 インドネシア ジャカルタ植樹」では、今回の植樹地に隣接する場所で、のべ5,100名のボランティアの皆さまとともに、63,000本のマングローブを植樹しています。

当財団はこれからも、いのちあふれる美しい自然を次代の子どもたちに引き継ぐため、植樹活動をはじめとする環境活動に積極的に取り組んでまいります。

### 記

日 時： 2019年7月13日（土） 8時00分～9時30分  
場 所： インドネシア共和国 ジャカルタ市北部 パンタイインダ カブック 高速道路脇  
植樹面積： 4,000㎡  
植樹本数： 10,000本  
参加人数： 1,000名  
樹 種： マングローブ  
主 催： ジャカルタ首都特別州、公益財団法人イオン環境財団  
協 力： イオンインドネシア(株)、イオンクレジットサービスインドネシア(株)  
イオンモールインドネシア(株)  
主な参加者： ジャカルタ首都特別州知事 アニス・バスウェダン 様  
(予定) インドネシア環境・森林省大臣 シティ・ヌルバヤ 様  
元インドネシア大統領諮問会議 議長 エミル・サリム 様  
駐インドネシア日本国大使館 特命全権大使 石井 正文 様  
(公財)イオン環境財団理事(イオン(株)取締役兼代表執行役社長) 岡田 元也  
イオンインドネシア(株) 社長 菓子 豊文

以上

## ご参考

【インドネシアにおける公益財団法人イオン環境財団の取り組みについて】

### ■イオンの森づくり

【インドネシアでの植樹活動（第1期ジャカルタ植樹：2011年～2013年）】



1990年の当財団設立以来、ボランティアの皆さまとともに世界各地で植樹を行っています。インドネシアでは、2011年より3年間で、延べ5,000人の参加者とともに、63,000本のマングローブを植樹しました。同植樹は、当財団創立20周年を記念して創設した「生物多様性みどり賞（国際賞）」を、エリム サリム博士（元インドネシア大統領諮問会議議長）が受賞したことがきっかけとなり、実施したものです。

### ■環境教育

【アジア学生交流環境フォーラム（ASEP）】

グローバルなステージで活躍する環境分野の人材育成を目的として、アジア各国の大学生が集い、各国の自然環境や価値観の違いを学びながら地球環境について国境を越えて討議をする、「アジア学生交流環境フォーラム（ASEP）」を2012年より実施しています。2019年度は、10ヶ国合計80名の学生が参加し、8月2日～6日の期間で、カンボジアのプノンペンとシェムリアップにて「持続可能な平和構築」をテーマに実施します。インドネシアの学生は、2016年から参加しており、2019年度はインドネシア大学の10名が参加します。



第7回ASEP開講式（マラヤ大学内）

### ■パートナーシップ

【生物多様性アワード】

生物多様性の保全と持続可能な利用の推進を目的として、「生物多様性みどり賞（国際賞）」と「生物多様性日本アワード（国内賞）」の2つのアワードを創設。隔年で開催し、顕著な環境保全活動が認められる個人・団体を顕彰しています。前述のとおり、2010年度開催の第1回「生物多様性みどり賞（国際賞）」では、元インドネシア大統領諮問会議議長のエミル・サリム氏が受賞しました。



第5回「生物多様性みどり賞」授賞式

【イオン環境セミナー】

アジアにおける地域社会の発展と環境人材の育成を目的として、早稲田大学ならびにアジア各国の環境研究者、専門家と連携した「イオン環境セミナー」2016年から実施しています。3回目となる2018年は、インドネシア大学にて実施し、「SDGs+1 アジアからの提言」をテーマに、環境の専門家を交え、SDGs+1について議論が交わされました。



イオン環境セミナー（インドネシア大学）

## 【公益財団法人イオンワンパーセントクラブの取り組み】

### ■諸外国との友好親善の促進

#### 【ティーンエイジ アンバサダー（高校生交流）】



ティーンエイジ アンバサダーは、日本と海外の高校生が互いの国を訪問し、国際的な相互理解と親交を深める交流事業です。2019年6月現在での交流人数は2,670名に上ります。「日本インドネシアティーンエイジ アンバサダー事業」を実施し、国立筑波大学附属坂戸高校とボゴール市のウムルクロ高校の高校生32名が参加しました。インドネシアとの交流は、2002年、2012年、2015年に続いて2018年に4度目となります。

#### 【アジア ユースリーダーズ】



アジア ユースリーダーズは、異なるバックグラウンドを持つアジア各国の若者が一堂に会し英語を共通言語として開催国の社会問題をテーマに議論を行い、問題解決力やグローバル感覚、価値観の多様性について理解を深めることを目的に実施しています。2018年は、ジャカルタで第9回を開催し、6カ国（中国、インドネシア、日本、マレーシア、タイ、ベトナム）の次代を担う学生たち85名が参加しました。

#### 【イオン スカラシップ】



イオン スカラシップは、アジアの大学生および日本で学ぶアジアの私費留学生を対象とした給付型奨学金制度です。将来、日本とアジア各国をつなぐ架け橋となってほしいという願いのもと2006年に開始しました。年間を通じた経済的支援のほか、日本で学ぶ奨学生を対象に、研修やボランティア活動の機会を提供し、グローバル人材への成長を目指す学生のサポートを行っています。2019年3月現在、7カ国（カンボジア、中国、インドネシア、日本、タイ、ベトナム、ミャンマー）の37大学6,302名に給付しました。インドネシアにおいては、2012年から支援を始め、インドネシア大学及びボゴール農科大学の学生に支援を行っています。